

家族そろってお寺に集う！



こども太鼓の演奏もあり賑わった境内 (23.7.9ファミリー参拝)



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

小僧の目

▼あるお宅にお参りした時のこと、お仏壇に色あざやかな花が活けられていて感心して法要を始めました▼しばらくして、読経中不謹慎でしたがどうも、その花がどこか不自然でしたので目を凝らして良く見ると、それはそれは精巧に作られた造花だったのです。その証拠に葉の表面にうっすらと白いほこりがついていたのです▼葬儀場(〇〇ホールなど)ではよく見かける風景で、沢山の花飾りを演出するためにはやむを得ないかもしれませんが、あまりいただけません▼真夏の暑いときは、朝元気だった花が夕方には、しおれていたり、これから向かう冬場では花は勿論のこと、水まで凍って花瓶を割ってしまった▼しかし、そこが大切です。一週間でも、一カ月でも造花は枯れません。枯れないけれどそのことに安心して、花(仏さま)への心づかいを、ついついおろそかにしてしまうのではないのでしょうか▼生花ならその花に「命」を感じ、最後のつとめをしてくれていた花を少しでも長持ちをさせるために、こまめに水を替えたり、人間様だけでなく、暖を取るなど努力をします▼その努力こそ阿弥陀さまや亡き人への御恩報謝の営みなのではないでしょうか▼朝食にパン食が多くなっていますが、朝炊いた最初のご飯を、仏さまに供えたと「お仏飯」と言うように花畑やお店にあるときは花ですが、お仏壇やお墓に供えたと「仏華(花)」と呼ぶ理由もそこにあり、浄土真宗では造花は供えません▼四季それぞれに適当な花を質素でも、一輪の花でも良い、精一杯咲いている花を最後までやさしくお世話(御恩報謝)をいたしましょう。

釋 玄真

ご寺院行事

- 11月13日(日) 報恩講法要 前10:00
 - 1月1日(日) 元旦会(法要) 前7:00
 - 1月16日(月) 御正當法要 前10:00
 - 3月20日(火) 春の彼岸法要 前10:00
- 講師 清水正宣先生(和歌山県)

ご定例法話会

- 11月20日(日) 講師 坂野実慈先生 (愛知県)
- 12月20日(火) 講師 本多龍典先生 (兵庫県)
- 1月20日(金) 講師 鈴木三博先生 (新潟県)
- 2月20日(月) 講師 三峯靈証先生 (福井県)

② お彼岸の関係で夜の法話会はお休みです。

いずれも毎月20日 夜7:00からです

家族でお寺に集う！ —今年は大鼓の演奏も—

第二十八回ファミリー参拝が七月九日(土)に行われ、多くの皆さんが境内に集いました。今年も境内で「響楽舎」の皆さんによる創作太鼓の演奏が行われ、お寺が一段と賑わいました。

本堂では、プロジェクト紙芝居に続き、代表の子どもが献灯・献華を行った後、讃仏偈を読経しお勤め。引き続き、住職と若院からお話しをいただきました。
コールガンダーの皆さんによる、アンパンマン体操のパフォーマンスもあり本堂には笑顔があふれました。



讃仏偈でおつとめ

境内では今年も、流しソーメン・綿あめ・ポップコーンがあり、新しくかき氷も用意され、いずれも大好評。また子供達は輪投げ、じやんけん大会でも楽しいひと時を過ごしました。



初登場！かき氷が好評でした



子ども達に人気のアンパンマン体操

第三十二回 早朝連続参拝に 延べ八百二十人

第三十二回早朝連続参拝が八月一日から十日間行われ、延べ八百二十人が参加。今回は初参加者が二十四名と多かったです。ご夫婦で参加された方など、皆さん熱心にお勤めされました。

今年、メイン講師をご住職にお願いし、「親鸞聖人のご和讃の味わい」をテーマに七日間お取次していただきました。また、ご住職から、初日はご和讃についての導入的なご法話を、最終日はまとめのご法話を聴聞させていただきました。親鸞聖人の深い信仰体験からほとばしる、感動の詩・ご和讃についての味わいが参加者の皆さんの心に深く刻まれ、充実感あふれた連続参拝となりました。

七日目の日曜日は、赤川浄友先生から「法話が好きになる法話」を聴聞させていただきました。講師の赤川先生は、日本医科大学の「笑い療法士」二期生(医師・看護師が六割、僧侶では二人)とのこと。「笑いが免疫力を高める、笑う時は息を吐き出す、泣くときは息を吸う」「お寺は息を吐き出すところ」などのお話を織り交ぜながらお話しされ、参拝者一同、

度々の笑いに誘われながら、深い味わいのあるご法話を聴聞させていただきました。参加者からは、先生のご法話をもう一度お聞きたいとの感想が、多く聞かれました。

また、初日には大洞会長からも挨拶とお話しがありました。会長は挨拶で、「今年、三十二回を数えるが、門信徒の皆さんが参拝してこそその三百日余であり、歴史のある早朝連続参拝である。三百六十五日をめざして、引き続きご参加を」とお話しされました。
感話では、六人の方々からそれぞれ味わいのあるお話があり、参加者一同に深い感銘を与えていただきました。



講師の赤川浄友先生(23.8.7)

感話者紹介



8月3日 堀尾由子さん



8月2日 和久井洋伸さん



8月6日 佐々木由枝さん



8月4~5日 成山秀幸さん



8月9日 瀧川 了さん



8月8日 黒木友春さん

第2回早朝連続参拝皆勤者

(敬称略)

春春加小大大大牛今伊一五五石五飯飯青
谷日賀原洞瀧瀧山井藤木川川川嵐吉吉木
巻千幾正軍政岩 ミツ太千敏イ美キ好袈さ
雄文子三治子美節ル門恵子枝子子子子子と

竹滝鷹高関進白清清洪小小久久神川上上
内川原嶋野藤田水水井山松川川原窪條條
公育 三逸八正博一常良滋澄 み輝幸日
一子仁代子子夫次男則一子子稔どり子子生

三堀堀北藤般畑西西西西西那仲中千玉谷
井尾内條本若谷山條川岡岡須田島原舎腰
由今朝栄輝明新周恵長廣泰三都長俊博興富
進子由治子弘衛治子子子子輔子晴一幸三郎春

以上六十六名
その他住職を含め
寺族が加わって
大勢の参加!

渡吉吉山山矢百村村宮宮三
辺田池下下島瀬上上嶋下井
和龍富政幸ア美稔和一ア
枝司貴貴子治子江子子子守子
糸



栗岡さんの印象は「実直」な方。敬念寺にご縁を持たれたのは五年前、九十四歳のお母さんを亡くされ、三百五十年続いた奈良にある栗岡家のお墓の件で悩み、同じ本願寺派である敬念寺に相談した時からです。これを機に人間の生き方、宗教の大切さに気づき、丁度長女が大谷派系の高校生であったことから共に「浄土真宗」について学ぶことになったそうです。

しょう しき
青 色
しょう こう
青 光
五十五回

浄土真宗のみ教えとともに

栗岡 正治 さん
辰野町辰野

それ以来、お寺での住職のお話をノートにまとめたり、お念佛や他力本願のこと、法然上人を知るため浄土宗のことも学ぶと共に、毎週のSBCのラジオ番組「み仏とともに」や「お早う住職さん」を録音してノートにまとめ、行く中で、他の宗派との違いが見えてきたと、おっしゃいます。

さらに今は、浄土真宗本願寺派の宗立・中央仏学院の通信教育学習課程に学ぶ日々です。

仕事についてお聞きすると、「サンフーズ」の堤・若社長の、おかげで正社員として勤められているとのこと。社訓の「感謝と思いやりの心を忘れず、自主創造の精神をもって行動す。」に感動して働いているとのこと。

自分の今あるのは、浄土真宗(お念仏)との出会いと、信頼してくれている若社長おかげと、感謝の言葉を語られました。

機会をとらえては、お寺に参拝されている栗岡さんですが、「お寺は、同じ思いの方々が集まっていることを感じ、本堂に座ると、心強さと安らぎを感じます。」と熱い思いを語ってくれました。

(栗岡さんはお休みの日には、朝七時のお朝事に、辰野からお参りされています。)

(滝川 記)

特集II

のし袋(金封)の書き方

〈ご霊前とは書かない〉—浄土真宗(敬念寺)の場合—



お布施というのは、仏(阿弥陀)様や亡き人にご恩報謝の思いから阿弥陀如来様に「捧げるもの」なのです。その意味で厳密に言えば、

浄土真宗の仏事における金封(水引、のし袋)での、お供えは全て「お布施」で良いのです。

しかしながら、実際には仏事の種類や状況によってさまざまに「表書き」が用いられているのが実情です。以下いくつかのケースに分けて述べてみますと—

① 葬儀や法事などで施主(喪主)が寺や僧侶に差し出す場合

「お布施」でよいのですが、本来は僧侶そのものに差し上げるものではなく、お寺の御本尊・阿弥陀如来様にお供えするものですから自宅で差し出す時には、「お盆に載せ」「おこつづけして失礼ですが…」と言葉を添えるのが正式です。葬儀のときは後日となりますが、お寺で行う法事などの場合は予め用意されているので始める前に、「お供えください」と差し出します。

「お礼」、「お経料」などはふさわしくありません。

② 他家の葬儀や法事に出席した場合

お通夜の場合は赤のしで「お見舞い」ですが、仏事関係の本などに無難なのは「ご霊前」とするなどとありますが、浄土真宗は特に故人の「霊」に供えるのではなく、仏様に供えるのですから「ご仏前」です。(その意味では、「お供」・「香典」なども良いと思います。)

③ お寺の法要・行事にお参りした場合

「ご仏前」・「お供」等のほかに「志」というのもあり、「お布施」と共に「お寺のために役立ててほしい」という思いの表れと言えます。

④ お墓、お仏壇の入仏法要(新調)に呼ばれた場合

少し趣を異にしますが、素直に「お祝い」で良いと思います。

⑤ その他 「のし袋」の色は?

水引の色は葬儀・四十九日の法事など悲しみを表す場合のみ黒。

それ以降は黄色または赤でも良いと思います。でも無難なのは黄色かな!

ちなみに、お寺の普段の法要・行事などの「ご仏前」「お布施」などは「赤のし」です。

~互助会や〇〇会員になってもお寺で葬儀ができます!~

隣家の手を煩わせることなく、業者の方々も親切にお手伝いして下さいます。葬儀は極楽浄土へのお見送りの式です。敬念寺の皆様は、90%お寺で葬儀をなさいます。そのおかげで、お寺が維持管理され、美しく保たれています。

お困りの方など、「分院」もお通夜など便利に活用されています。

お寺の直轄墓地あります!

敬念寺丸戸墓地

いのちの大切さを伝えていくために

お寺から歩いて十分位の市街地にあります。ご兄弟やお知り合いの方におすすすめ下さい。

—お申し込み—

お問い合わせはお寺まで—

参拝ホール・境内の

回遊(動線)について

—年中行事・葬儀の際—

お盆やお彼岸を始め、葬儀の際に混雑や冷暖房の関係で、受付・礼拝の後、左記のよう的一方通行をしていただくよう、ご協力をお願いいたします。



入口



出口

平成二十三年年度

報恩講法要のご案内

—今年最後の法要です。おさそい合わせてお参り下さい—

◆日 時 平成二十三年十一月十三日(日) 午前十時より

◆行事日程 (開始十分前には入堂ご着席ください。)

○受付 九時三十分～九時五十分

○報恩講法要 十時～十一時

○法話 十一時～十二時

講師 横須賀市常光寺住職

鶴山信行先生

「人と仏」

○おとぎ(会食) 十二時～十三時

◆報恩講協賛 門信徒作品展・菊花・山野草展示他



参拝者の声

(投稿コーナー)

○早朝連続参拝皆勤者

久保川 稔・澄子さん

この時期になると、行こうという気持ちになり、今までも何回か皆勤しています。今年も住職様の「和讃」については充実感がありとてもわかりやすかったですね。感話もゴミの話や獣医さんのお話など、身近な話題であり毎日が楽しみでした。これからも、こうした身近なお話があれば、また「行こう！」という気持ちになります。います。



関野 逸子さん

一日の始まりにけじめがつきました。はじめての参加でしたが、ご住職様のお話や、感話をされた方々のお話をお聞きし、一人ひとりが立派に生きておられるんだなあと思ひ、このような場に自分が置かれるのも、親鸞様の御縁あつてのことと感謝の気持ちです。

主人を亡くしての寂しさも紛れることでありました。

○ファミリー参拝で献灯

瀧川 大地くん

教えていただいたままに、初めて献灯をやらせてもらい、とっても緊張した。

何か楽しい気がした……。帰りにお土産をもらい、うれしかった。

代表の子どもが献灯・献華



編集後記

行事(法要)も報恩講を残すのみとなりました。

今年も、代表者による、親鸞聖人七百五十回大遠忌団体参拝をはじめ、お寺の行事(法要)、日曜礼拝などを通じ、ご勝縁を身にしみて感じることも多かった日々ではなかったでしょうか。

来る報恩講にも、多くの門信徒の皆様が参拝されますよう、お願いいたします。

(白田 記)



親子連れでおまいり(8月7日早朝連続参拝)



住職さんと握手(7月9日ファミリー参拝)



婦人部研修旅行:中野市バラ園(6月17日)



充実感あふれ帰路につく(8月10日早朝連続参拝最終日)

○四月九日から始まった本山・大遠忌法要団体参拝者の迎え・案内等の奉仕活動に、敬念寺からも三人の方が参加されました。いずれも門徒推進員の方々に、中島俊一さんが四月十三日・十四日に、川窪輝子さんと滝川育子さんが九月十二日にご奉仕されました。四月に参加された中島さんは、堂内で金活動にも参加されました。



本場で発表する中島さん

○親鸞聖人七百五十回大遠忌法要期間中、「門信徒による発表法に あえたよろこびを語る」が行われていきます。敬念寺では、門徒推進員の中島俊一さんに、本山の門信徒会運動本部より出講要請があり、九月十二日に伝道院 開法会館・総会所でご自身の信仰の喜びを発表されました。

本山での活動報告

震災被災地へ浴衣を送る!

宮城県ゆりあげ地区の仮設住宅で、お盆の追悼灯籠流しが行われました。それに浴衣をと、仙台別院の要請に応じ門徒推進員の西山周治さんが呼び掛けたところ、婦人部のみなさんはじめ多くの方々から、八十五枚もの善意が寄せられ、被災地にお届けしました。



被災地に贈られた浴衣



兵庫教区の永井さんと川窪・滝川さん